

# 日本分類学会連合ニュースレター

News Letter published by the Union of  
Japanese Societies for Systematic Biology

No.10 [2006年12月28日]

## 連載「連合加盟学会の活動紹介」

### 日本甲虫学会

林 靖彦 (運営委員)

初宿成彦 (運営委員)

#### 【目的と概要】

日本甲虫学会は1945年に大阪で誕生した甲虫類専門の会です。約400人の会員の多くはアマチュアで、日本国内だけで1万種を超える甲虫類の分類・分布・生態などを調査しています。

#### 【沿革】

本学会の前身となる近畿甲虫同好会は1945年に発足し、1960年に現在の会名に改称されました。

#### 【構成】

##### (1)事務局・各種連絡先

事務局本部

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23

大阪市立自然史博物館・昆虫研究室気付

日本甲虫学会(担当:初宿成彦 宛)

入会問合せ先・住所変更連絡先・退会届先

〒590-0144 堺市南区赤坂台 1-18-5

野村英世 宛

欧文誌「昆虫学評論」投稿先

〒666-0116 兵庫県川西市水明台 3-1-73

林 靖彦 宛

和文誌「ねじればね」投稿先

〒614-8371 京都府八幡市男山雄徳 8 E7-303

伊藤建夫 宛

2006年度年次大会案内

<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/jcs.html>

##### (2)会員数(2006年6月30日現在)

正会員:402名

##### (3)役員(2006年12月1日現在)

会長:故・佐々治寛之博士の逝去のため、現在は不在

運営委員:林靖彦・野村英世・伊藤建夫・水野弘造・伊藤昇・谷角素彦・初宿成彦・保科英人・益本仁雄

編集委員:森本桂・林靖彦・大林延夫・酒井雅博・安藤清志・伊藤昇・芦田久・大原昌宏・吉川鮎美

評議員:上野俊一・大川親雄・久松定成・木元新作・澤田高平・岸井尚

#### 【入会方法・会費など】

##### (1)会費(会計年度は1~12月)

A 会員会費 ¥5,000(「昆虫学評論」,「ねじればね」の送付)

B 会員会費 ¥6,000(上記2誌+「地域甲虫自然史」の送付)

賛助会員年会費 ¥30,000以上(送付誌はB会員に同じ)

##### (2)入会方法・会費支払い方法

入会申込書(形式は任意)の作成:以下の事項を必ずお

知らせください。名前,同ローマ字つづり,生年月日,所属先または自宅住所,電話番号,メールアドレス,会員のカテゴリー(A会員/B会員/賛助会員)。

入会申込書の送付:できれば郵送にて,本会の野村英世・運営委員(連絡先は別記)へお送りください。どうしてもメールを希望の場合は,本会本部担当の初宿成彦・運営委員(連絡先は別記)へお送りください。初宿から野村へ転送いたします。

年会費の送金:会員は上記の年会費を,郵便振替で00990-8-39672「日本甲虫学会」へ,年度ごとに必ず送金してください。新規入会の場合,入会金は特に必要ありませんが,通信欄に「新入会希望」と明記してください。

#### 【活動】

##### (1)大会・例会

・年次大会:原則として12月の第2日曜日に,大阪市立自然史博物館において開催しています。

・例会:春季,秋季の2回。通常は同館にて開催しています。

##### (2)採集会

・年1~2回,初夏~夏ごろに開催しています。

##### (3)出版活動

・昆虫学評論 Entomological Review of Japan (年に2回) 欧文誌:主に新種記載など。

・ねじればね(年に2回) 和文誌:新分布記録,生態的知見,同定の手引きなど。

・地域甲虫自然史 Regional Natural History of Coleoptera (不定期):和文誌主に各地の甲虫相リストを掲載しています。

・Special Publication of the Japan Coleopterological Society (不定期):欧文誌:2001年に第1号(佐々治寛之博士退官記念誌)を発行したのみ。

#### 【学会ホームページ】

<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/jcs.html>

\*\*\*\*\*

## 日本分類学会連合加盟学会の大会・シンポジウム

### 日本魚類学会

以下の要領で2007年度日本魚類学会年会在開催されます。

期日:2007年10月5日(金)~10月8日(月)

行事:編集委員会・評議員会 5日

研究発表会・シンポジウム 6~8日

会場:北海道大学 学術交流会館

〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

年会の開催に合わせて北海道大学 COE 主催シンポジウム"Micro and macro evolution of fishes"が10月4日~5日に開催される予定です。

### 日本土壌動物学会

日本土壌動物学会第30回大会が2007年5月18日~20日に横浜国立大学で開催されます。詳しくは学会ホ

ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssz/> でご確認下さい。

東京都豊島区西池袋 3-34-1  
詳しくは学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/tbsj/meeting/62nd/inform.htm> をご覧下さい。

### 日本ダニ学会

日本ダニ学会第16回大会が下記の要領で開催される予定です。

期日：2007年10月24日(水)～26日(金)  
場所：千葉大学 西千葉キャンパス / けやき会館  
<http://www.chiba-u.jp/general/about/map/nishichiba.html>  
JR 総武線各駅停車「西千葉」駅下車，徒歩5分  
京成千葉線「みどり台」駅下車，徒歩7分  
第16回大会長 上遠野 富士夫(千葉県農業総合研究センター)  
詳しくは学会ホームページ <http://www.affrc.go.jp:8001/acari/ja/meeting.php> をご覧下さい。

### 日本古生物学会

日本古生物学会第156回例会が徳島県徳島市(開催場所：徳島県立博物館)にて，2007年2月2日(金)，3日(土)，4日(日)に開催されます。  
詳しくは学会ホームページ <http://ammo.kueps.kyoto-u.ac.jp/palaeont/whatnew-f.html> をご覧下さい。

### 日本動物分類学会

日本動物分類学会第43回大会が以下の要領で開催されます。  
会期：2007年6月9日(土)～10日(日)  
会場：北九州市立自然史・歴史博物館  
大会長：馬場敬次(元・熊本大学)  
実行委員長：下村通誉(北九州市立自然史・歴史博物館)

### 日本植物分類学会

日本植物分類学会第6回大会および2007年度総会が以下の要領で開催されます。

【会場】  
発表・総会・シンポジウム  
新潟大学医学部有任記念館  
編集委員会・評議員会・懇親会  
ホテルイタリア軒

【日程】  
2007年3月14日(水)～3月17日(土)

【お問い合わせ先】  
〒950-2181 新潟市五十嵐2の町 8050  
新潟大 理 自然環境  
高橋 正道  
電話 025(262)6991  
FAX 025(262)6991  
Email: [masa@env.sc.niigata-u.ac.jp](mailto:masa@env.sc.niigata-u.ac.jp)  
<http://env.sc.niigata-u.ac.jp/~masa/>

### 日本昆虫学会

日本昆虫学会第67回大会が2007年9月15日(土)～17日(月)に神戸大学六甲台キャンパスで開催される予定です。詳しくは学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/entsocj/meet/m-2007.htm> をご覧下さい。

### 日本生物地理学会

日本生物地理学会第62回年次大会が以下の要領で開催されます。  
日時：2007年4月7日(土)～8日(日)  
会場：立教大学 〒171-8501

### 日本菌学会

第51回日本菌学会年次大会が2007年5月26日(土)～27日(日)の2日間，筑波大学で開催されます。詳しくは学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/msj7/> でご確認下さい。  
\*\*\*\*\*

## 日本分類学会連合・日本生物教育学会 共催シンポジウム

日本分類学会連合第6回シンポジウム「生活環の多様性を比較する」が日本生物教育学会と共同で以下の要領で開催されます。加盟学会会員の皆様のご参加をお待ちしております。

日時：2007年1月8日(月：祝日)  
受付 8:30～9:30  
シンポジウム 9:30～12:30  
ワークショップ 13:30～16:30  
会場：東京学芸大学教育学部(小金井キャンパス)  
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1  
参加費：無料 事前申込は必要ありません  
問い合わせ先：日本分類学会連合庶務 佐々木猛智 [sasaki@um.u-tokyo.ac.jp](mailto:sasaki@um.u-tokyo.ac.jp) 日本生物教育学会大会実行委員会事務局 真山茂樹 [bioedu82@u-gakugei.ac.jp](mailto:bioedu82@u-gakugei.ac.jp)

- シンポジウム(講演)
- 9:30-9:35 趣旨説明  
原 慶明(日本分類学会連合代表)
  - 9:35-9:50 「生活環から見る生物の多様性」  
加藤雅啓(国立科学博物館・植物研究部)
  - 9:50-10:15 「菌類の生活環と菌類分類学の特徴」  
細矢 剛(国立科学博物館・植物研究部)
  - 10:15-10:40 「原生動物繊毛虫の生活環：二核性由来する特異な有性生殖過程」  
見上一幸(宮城教育大学)
  - 10:40-11:05 「シダ植物の生活環とその特徴」  
今市涼子(日本女子大学理学部)
  - 11:05-11:30 「ライブイメージングから解き明かす被子植物の重複受精」  
東山哲也(東京大学理学系研究科)
  - 11:30-11:55 「コケ植物の生活環と特徴：その教育的価値を中心に」  
佐藤崇之(広島大学教育学研究科)
  - 11:55-12:20 「海藻における生活環の多様性と進化」  
神谷充伸(福井県立大学生物資源学部)
  - 12:20-12:30 全体的な質疑応答  
ワークショップでは実物の標本、映像等を用いた展示解説が行われます。解説者：細矢 剛，見上一幸，海老原 淳(国立科学博物館・植物研究部)，東山哲也，佐藤崇之，神谷充伸  
\*\*\*\*\*

### 公募のお知らせ

#### 国立科学博物館筑波実験植物園研究員公募

国立科学博物館では以下の要領で研究員の公募が行われています。  
1. 採用人員1名  
2. 研究分野植物分類学

- 3. 職務内容植物に関する調査研究, 植物の育成管理, 植栽区域の整備, および植物資料収集・管理, 成果の公表および植物資料の展示, 学習支援活動
- 4. 勤務地独立行政法人国立科学博物館筑波実験植物園(茨城県つくば市)
- 5. 応募資格博士の学位を有し(平成 18 年度内に取得見込みの者を含む), 平成 19 年 4 月 1 日で 40 歳未満の者
- 6. 採用予定時期平成 19 年 4 月 1 日
- 7. 提出書類
  - (1)履歴書(写真貼付) 1部
  - (2)研究業績目録 1部
  - (3)主要論文 3部の別刷りまたはコピー 各1部
  - (4)現在までの研究概要 A4紙1枚
  - (5)今後の研究の抱負 A4紙1枚
  - (6)博物館活動, 特に植物園での展示及び学習支援活動に関する抱負 A4紙1枚
  - (7)推薦書(または応募者について照会できる方の氏名, 連絡先) 1枚
  - (8)研究費などの取得状況 1部
- 8. 応募期間 平成 19 年 1 月 10 日(水)必着. 封筒の表に「研究員応募書類」と朱書きし, 書留で郵送してください.
- 9. 応募書類提出先および問合せ先  
〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1  
独立行政法人国立科学博物館筑波実験植物園  
研究員選考小委員会 加藤雅啓(園長)  
TEL : 029-853-8984 FAX : 029-853-8998  
\*\*\*\*\*

日本分類学会連合の活動

日本産生物種数調査委員会より

日本産生物種数調査委員会では今後の種数調査の参考とさせていただくべく, 27 加盟学会代表の皆様にご依頼いたしましたところ 17 学会からご回答をいただきました. ご多忙中アンケートにご協力いただいた加盟学会の皆様にお礼を申し上げます. 以下に結果をご報告いたします.

質問 1) 学会がカバーする分類群の日本産種のチェックリスト・カタログなどがありますか?

存在する 8 学会 【質問 2)へ】  
存在しない 9 学会 【質問 5)へ】

質問 2) チェックリスト・カタログには標準和名リストも含まれていますか?

はい 6 学会  
いいえ 1 学会  
無回答 1 学会

チェックリスト・カタログは  
出版物として存在する 【質問 3)へ】  
Web 版が公開されている 【質問 4)へ】

質問 3) 分類群と書誌情報をお答え下さい.

菌類: 原根祐【著】1954. 「日本菌類目録」日本菌類学会.

維管束植物: 岩槻邦男 他【編】1993~2005. 「Flora of Japan, I, IIa, IIb, IIc, IIIa, IIIb」講談社.

魚類: 中坊徹次【編】2000. 「日本産魚類検索第 2 版」東海大学出版会.

地衣類(及び関連菌類): Harada, H., Okamoto, T. & Yoshimura, I. 2004. A checklist of lichens and lichen-allies of Japan. Lichenology 2(2):

47-165.  
 蘚類: Iwatsuki, Z. 2004. New catalog of the mosses of Japan. J. Hattori Bot. Lab. 96: 1-182.  
 苔類・ツノゴケ類: Yamada, K. & Iwatsuki, Z. 2006. Catalog of the hepatics of Japan. J. Hattori Bot. Lab. 99: 1-106.  
 【コメント: 蘚類・苔類・ツノゴケ類の上記2論文は共に抜き刷りがカタログとして出版されています】  
 古生物(石灰質ナノ化石, 渦鞭毛藻類, 放散虫類, 新生代小型底生有孔虫類, 浮遊性有幼虫類, 紡錘虫類, 翼足類・異足類, 新生代斧足類, 古生代及び中生代の腹足類・单板類・ヒオリス類, 非海産軟体動物類, 貝甲類, フジツボ類, 十脚類・等脚類・口脚類, 新生代腕足類, 古生代・中生代苔虫類, 新生代苔虫類, ウミユリ類, ウニ類・ナマコ類, コノドント, 生痕化石): Ikeya, N., Hirano, H. & Ogasawara K., eds. 2001. The database of Japanese fossil type specimens described during the 20th Century (part 1). Palaeontological Society of Japan, Special Papers No. 39, 500pp, with CD ROM, ¥3,500.  
 古生物(植物巨視化石, 花粉・孢子その他の花粉化石, 古生代小型底生有孔虫類, 中生代・新生代大型有孔虫類, 古生代・中生代珊瑚類, 三疊紀アンモナイト類, 白亜紀アンモナイト類, 中生代・新生代頭足類, 新生代腹足類, 新生代掘足類, 新生代二枚貝類[追補], 新生代苔虫類[追補], 非海産軟体動物[追補]): Ikeya, N., Hirano, H. & Ogasawara, K. (Eds) (2001): The database of Japanese fossil type specimens described during the 20th Century (part 2). Palaeontological Society of Japan, Special Papers No. 40, 569pp, with CD ROM, ¥5,000.  
 古生物(珪藻類, 貝形虫類, ジュラ紀アンモナイト類, 三疊紀・ジュラ紀二枚貝類, 白亜紀二枚貝類, 多板類その他の軟体動物, 中生代腕足動物, 三葉虫類, 昆虫類, 脊椎動物類): Ikeya, N., Hirano, H. & Ogasawara, K. Eds. 2001. The database of Japanese fossil type specimens described during the 20th Century (part 3). Palaeontological Society of Japan, Special Papers No. 41, 353pp, with CD ROM, ¥4,300.  
 古生物(石灰藻類, 古生代・中生代ストロマトポラ類, 三疊紀・ジュラ紀有孔虫類, 中生代浮遊性有孔虫類, 古生代アンモナイト類, 古生代非アンモナイト型頭足類, 古生代二枚貝類[吻殻類を含む], ウミユリ類[追補], 古生代・中生代珊瑚類[追補], 非海産軟体動物[追補]): Ikeya, N., Hirano, H. and Ogasawara K., eds. (2004): The database of Japanese fossil type specimens described during the 20th Century (part 4). Palaeontological Society of Japan, Special Papers No. 42, 72pp, with CD ROM, ¥1,500.  
 海産哺乳類を除く全ての哺乳類: 阿部永【監修】2005. 「日本の哺乳類 改訂版」東海大学出版会206pp.【コメント: 全種の解説が和文・英文併記. 標準和名, 英名, 学名(記載者, 記載年を含む)を掲載】  
 日本産全ての哺乳類: 日本哺乳類学会【編】1997. 「レッドデータ 日本の哺乳類」文一総合出版, 279pp. 【コメント: 全種(レッドデータ非選定種も含む)の標準和名, 学名を掲載. 英文の種リスト(学名, 英名, 和名)も掲載】  
 昆虫網八工目クロキノコバエ科キノコバエ科ケバエ科: 平島義宏【監修】九州大学農学部昆虫学教室・

日本野生生物研究センター【共同編集】1989.「日本産昆虫総目録」  
 結合網:高野光男.1980. Edaphologia 22: 35-45.;  
 Rochaix,B.,1954. Acta Arachnol. 13 (3/4): 107-109;  
 青木淳一【編】1999.「日本産土壌動物」東海大学出版会.【コメント:和名を掲載】  
 ササラダニ類:江原昭三【編】1980.「日本ダニ類図鑑」全国農村教育協会.  
 アリ類:日本産アリ類データベースグループ【著】2003.「日本産アリ類全種図鑑」学研.  
 質問4) 分類群とURLをお答え下さい.  
 維管束植物: <http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist.keitai.htm> 【コメント:BG Plants和名-学名インデックス(いわゆるYList). 東北大学の米倉浩司さん,千葉大学の梶田忠さんが中心になって作成したもので,Webで公開され多くの方に利用されています】  
 地衣類: <http://www.lichen.akita-pu.ac.jp/jsl/modules/xfsection/article.php?articleid=9> 【コメント:日本地衣学会公式サイト内にあり】  
 両生類・爬虫類: <http://zoo.zool.kyoto-u.ac.jp/herp/wamei.html> 【コメント:新種や分類の変更に対応して更新しています】  
 蕨類: <http://www7.ocn.ne.jp/~hattorib/checklist-j.html>  
 苔類・ツノゴケ類: <http://www7.ocn.ne.jp/~hattorib/checklist2-j.html>  
 古生物: <http://www.aist.go.jp/RIODB/dform/FossilType/> 【コメント:一括検索可能】  
 魚類: [http://www.fish-isj.jp/info/list\\_additon.html](http://www.fish-isj.jp/info/list_additon.html) 【コメント:「日本産魚類検索第2版」(2000)以降の追加種がリストされています】  
[http://www.fish-isj.jp/info/list\\_rename.html](http://www.fish-isj.jp/info/list_rename.html)  
 昆虫綱ハエ目クワガタ目コバエ科キノコバエ科ケバエ科: <http://konchudb.agr.kyushu-u.ac.jp/mokuroku/index-j.html>  
 昆虫綱原尾目(カマアシムシ類): [http://www.ne.jp/asahi/nakamura/osami/protura\\_list/listname.htm](http://www.ne.jp/asahi/nakamura/osami/protura_list/listname.htm)  
 昆虫綱双尾目(コムシ類): <http://www.ne.jp/asahi/nakamura/osami/animal/diplura.htm>  
 ササラダニ類: <http://www.erm.ynu.ac.jp>  
 アリ類: <http://ant.edb.miyakyo-u.ac.jp/J/JADG/world.html>

質問5) 学会がカバーする分類群の日本産種のチェックリスト・カタログ・和名リストなどのコンパイルを進めていますか? (複数回答有)

1. 学会として行っている	5学会
2. 学会員個人が行っている	6学会
3. 行っていない	5学会
(無回答)	2学会)

**日本分類学会連合ホームページ**

日本分類学会連合では、ホームページを開設しております(<http://www.bunrui.info>)。各加盟学会のホームページとのリンクや日本国内のタイプ標本データベース・日本生物種数調査の結果・掲示板など、コンテンツも次第に充実しつつあります。ニューズレターも含めて連合の活動を随時掲載してまいりますので、連合・加盟学会の活動状況を随時ご確認ください。

**TAXA 生物分類学メーリングリスト**

日本分類学会連合が運営するメーリングリスト TAXA は、生物分類学に関する情報交換や討論をするためのメーリングリストで、生物分類学に関心をもつすべての方に開放されています。TAXA メーリングリストは下記の趣旨により開設されました:

日本分類学会連合は、「生物の分類学全般にかかわる研究および教育を推進し、我が国におけるこの分野の普及と発展に寄与することを目的(規約第2条)」として、2002年1月12日に設立されました。現在、分類学に関係の深い27の学会が加盟しています。その後、本連合はこの目的に向かって様々な活動を展開してきましたが、このたび新たな事業として「メーリングリスト TAXA」を開設することになりました。このリストの趣旨は、本連合からの広報のほかに、登録会員が互いに分類学に関する情報交換や討論をするための場を提供することにあります。したがって、このリストは本連合の加盟学会の会員ばかりでなく、分類学に関心をもつすべての方に開放されます。なお、リストへの登録など管理、運営は本連合の担当者が行いますが、投稿は登録会員なら誰でも自由に行えます。多くの方が登録くださいますようご案内申し上げます。

2003年12月21日  
 日本分類学会連合  
 代表:加藤雅啓

TAXA は2003年12月13日に開設され、2003年12月24日午後5時に稼働開始しました。2006年11月27日の時点で【794】名の会員が登録されています。入会を希望される方は、

- 1) メールアドレス
- 2) 氏名(日本語表記ならびにローマ字表記)
- 3) 所属

を明記の上、TAXA 運営担当の三中信宏(taxa-admin@ml.affrc.go.jp)までご連絡ください。

\*\*\*\*\*

**[編集後記]**

分類連合ニューズレター第10号が無事発行の運びとなりました。これもひとえに加盟学会員の皆様のご協力のおかげでございます。

分類連合ニューズレターでは随時加盟学会員の皆様から広くご寄稿を募集しております。原稿は柘原宛(kazi@mail.sci.hokudai.ac.jp)に電子メールでお送りください。電子メールが使用できない場合はFAX(011-746-0862)もしくは郵送(〒060-0810 北海道大学大学院理学院自然史科学分野)でお送りいただいてもかまいません。皆様からの多数のご寄稿をお待ち申し上げます。

(ニューズレター編集担当:柘原 宏)

\*\*\*\*\*

**日本分類学会連合ニューズレター 第10号**

2006年12月28日発行  
 発行者 日本分類学会連合  
 事務局 〒169-0073 東京都新宿区百人町3-23-1  
 国立科学博物館

編集者 柘原 宏

\*\*\*\*\*